

Unison Research

Simply Italy 音質評価

製品の概要

Si mply Italy は、日本登場と共に大ヒットした Simply Series の最新モデルです。真空管は入力に 2 本の ECC82 (12AU7A)、出力管に EL34 が 2 本使用され、純 A 級シングル駆動で 12W の最大出力を実現しています。

逸品館では、Sinfonia の登場まで Unison Research の真空管アンプをそれほど高く評価していませんでした。それは、真空管としては音が高めで音色もやや単調、聞いていてトランジスタアンプとの大きな差が感じられなかったからです。しかし、真空管をブリ、トランジスタをパワー段に使ったハイブリッドアンプ、CD プレーヤーの Unico Series からその音作りは一気に円熟味を増し、イタリアらしいノリノ良さで音楽を楽しく鳴らしてくれるようになりました。

そして、Sinfonia、Performance という素晴らしい真空管プリメインアンプの登場で、Unison Research は逸品館の最もお薦めしたい真空管アンプのポジションを不動のものとなりました。しかし、相次ぐ値上げにより少し手が届き難くなったのも事実です。

しかし、Simply Italy は、予想よりもかなり「安い」価格で登場しました。初代の血を引く Simply Two のメーカー希望小売価格は 30 万円（税別）ですから、一気に 11 万円の大幅な値下がりです！それだけでも朗報ですが、さらに外観の美しさも Simply Two に一歩も

引けを取りません。写真でもその作りの良さは伝わりますが、ボリューム / セレクター / スイッチの周りを飾るベゼルは、なんと無垢木材の削り出しという豪華さです。価格の安さで売上を伸ばしている中国勢にもコストパフォーマンスで勝負できるほどお買い得感たっぷりです。

入力は、CD/TUNER/AV/AUX/TAPE の 5 系統、出力は TAPE-OUT が 1 系統設けられています。ボリュームは小音量時の音量調整も優しく、Unison Research らしい木製土台を採用した立派なリモコンも付属します。美しいボンネットも 1 万円（税込）のオプションと、これもあり安い感じがあります。

真空管の銘柄は、ロシア製の「TUNING SOL」が使われています。試しに小さい方の球（12AU7A）をチェコスロバキア製の JJ に変えてみましたが、音が細くなりパワー感も損なわれて良くありませんでした。標準



入力数 LINE×5
出力数 TAPE OUT×1
使用真空管 ECC82×2、EL34×2
最大出力 12W(6Ω)
周波数特性 10Hz-100KHz (±1dB)

装着の TUNING SOL は十分吟味して選ばれ、アンプもその球にきちんと合わせて音決めされている印象です。

発熱は真空管アンプとしては標準より若干少なく、それほど熱くありません。無信号時の消費電力は約 85W です。フロントパネル正面の真空管の間にあるレバー式のスイッチでフィードバック（負帰還）の量を 5/1.8dB の 2 段階に切り替えられます。5dB では低音が引き締まった、しっかりした音が出ます。1.8dB に切り替えると音量が少し大きくなり、響きの多いより真空管らしい音になりました。どちらが絶対に良いというスイッチではありませんので、お聞きになる楽曲やスピーカーなどに合わせて切り替えて楽しんでいただければと思います。

使用機器

プレーヤー

AIRBOW SA15S2/Master
販売価格 250,000 円（税込）

「生よりもほんの少し多い温かさと滑らかさ」が加わります。そのほんの少しの甘さが、JAZZ ボーカルをさらに「ソフトでムーディー」にします。弦楽や交響曲では、多重マイク録音による楽音の混濁感を緩和し、うるさくなりがちなストリングスに「滑らかさと厚み」を与えます。



スピーカー

Vienna Acoustics
Beethoven Concert Grand
定価 638,000 円（税別）

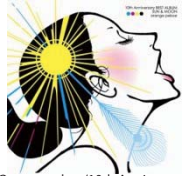


スピーカー

Focal Electra 1028Be
定価 1,200,000 円（税別）



音質テスト結果 Focal 1028Be と組み合わせて



Orange pekoe/10th Anniversary
Best Album Sun&Moon

17 曲目「Selene」を聞きました。ギター音が美しく、響きが綺麗です。ボーカルはとても優しく、適度な湿り気と艶を感じます。声の調子を変えたところ、舌を少し巻いて発音したところなど、声の変化がとてもリアルです。

音の広がりも抜群で濁りの少ない空間に、細やかに音が広がってゆきます。それはまるで、静かな水面に波紋が広がって美しく重なり、やがて消えてゆくよう

なイメージです。同じ純A級のトランジスタアンプも緻密な音ですが、これほどの透明感と純度の高さは持っていません。この精緻で美しい世界は真空管アンプ、それもシングルアンプでしか醸し出せない世界かもしれません。

低音は豊かですが、1028Be との組合せでは、時に音が膨らんでしまうことがありました。

音に無理や誇張感や不自然さを感じられず、本当に自然で体をゆだねていくような音です。初代の Simply Two との比較では、低音が圧倒的に豊かで中高

音の透明感と細やかさ、そして暖かさと表現力の豊かさで Italy が勝っています。同じ音楽を聞いたときの、納得感や情緒深さではかなり大きな差が感じられるはずです。1028Be との組み合わせでは、低音が膨らみまますので大音量で音楽をお聞きになる場合や、狭い空間で 1028Be をお使いの場合には注意が必要です。どちらかと言えば、もう少し小さなスピーカーとの組み合わせが理想的なようです。

穏やかなボーカル系、アコースティック系の楽器が使われるソフトとの相性は抜群でした。



Hilary Hahn/Violin Concertos

ソフトをクラシック系に変えたことで、Simply Italy の良さが最大に引き出されます。

バイオリンはみずみずしく、そして滑らかです。豊かな低音がシンフォニーのスケールを部屋いっぱいに広げて再現します。

音と音の間に見事な隙間があり、水面に静かに波が広

がるイメージそのもので音楽を楽しめます。コンサートマスターと伴奏の対比、バイオリンとチェロ、コントラバスの厚みの違い、美しいパッサのメロディー、交響曲ならではの味わいのすべてが楽しめます。

こんな素晴らしい音で交響曲が聴けて、そのアンプが 20 万円を切るというのは驚きです。トランジスタブリメインアンプ、下手なセパレートアンプは足下にも寄せ付けられないでしょう。また、下手な 300B シングル

アンプよりもピュアで透明なサウンドが実現していることも驚きです。細かく上品で美しい音。出力の 12W もまったく問題なく、かなりの音量で交響曲を再生してもパワーは十分に足りました。1028Be との組み合わせで聴くクラシックは、価格の枠を超えて素晴らしく、演奏の素晴らしさに喝采を送りたい気持ちになりました。



Lady Gaga/Born This Way

低音にパワーがあり中域にも十分です。高音はクラシックで感じたほ

ず、かなり響きすぎたにもかかわらず、シンセでならされているパンチのある低音はまったく肥大しませんが、普通なら、だらしなく広がってしまう低音が、きちんとリズムを刻みます。しかし、Orange Pekoe やヒラリー・ハーンの交響曲で感じた「良さ」はかなり薄

くなります。良い音ですが、このソフトはトランジスタアンプで鳴らす方が、輪郭がキリリとしてさらに気持ちよく聞けるのではないのでしょうか。

音質テスト結果 Vienna Acoustics Beethoven Concert Grand(T3G) と組み合わせて



Beethoven Concert Grand との組み合わせでは、Orange Pekoe

を最初から聞きました。スピーカーのグレードが違うので仕方がないのですが、音の数がかなり減ってしまった印象です。ギターの音はあいかわらず美しく響きが綺麗ですが、

ちょっと楽器の質が落ちた感じですが。ボーカルは少し堅くなりましたが、こちらはまだまだ魅力的です。少しあっさりしてはいるのですが、そのあっさりした軽快な感じもそれはそれで悪くないからです。

音の広がりややはり抜群です。透明感も高いのですが、1028Be で感じた精緻なイメージには少し届きません。それでもやはり、トランジスタアンプでこの艶やか

な音は出せないでしょう。

低音は 1028Be ほど豊かではありませんが、逆に膨らみが少なくスピーカーを鳴らしやすい感じですが。Simply Italy は Beethoven Concert Grand を軽快に、そして快活に鳴らします。聞いていて元気が出る音という、Unison Research の最大の長所は十二分に発揮されました。



そこで 5dB で使っていたフィードバックのスイッチを切り替えて 1.5dB に変えてみました。

音の数が減る（楽団員の数が少ない感じられる）のは、やはりスピーカーの価格の差（グレードの差）なので仕方がないのですが、元気の良さまで少し失われたように感じました。

タイトすぎて響きの少なかった低音が少し膨らんで、ヒラリー・ハーンのバイオリンの躍動感も増しました。1028Be では 5dB がマッチしましたが、Beethoven Concert Grand では 1.5dB が良さそうです。

Beethoven Concert Grand が 1028Be と比べるとキャビネットの響きが多いせいか、音の響きが少しだけ濁って感じられます。それでも絶対的にはかなりの透明感が実現しています。

若干味が薄くなりましたがコンサートマスターと伴奏の対比、バイオリンとチェロ、コントラバスの厚みの違い、美しいパッサのメロディー、交響曲ならではの表現力は相変わらず素晴らしいものがあります。Beethoven Concert Grand を先に聞いていたら、Simply Italy の評価はもっと高いものになったはずですが。逆に言えば 1028Be との組み合わせで聞いた音が、素晴らしすぎたと言えるでしょう。



ような電気楽器が多用される Pops を金属ツイーターを搭載するスピーカーが逆になります。音が伸びやかで切れ味、パワー感も音もしっかりとした厚みを感じられ、ぐんぐん前に出てきます。Beethoven Concert Grand がこんな音で Pops を鳴らすのはあまり聞いたことがありません。音数も 1028Be で聞くよりも増えた感じですが。この結果は、通常のテストとは正反対です。その理由を考えてみました。先に聞いた 2 曲はアコースティック楽器が使われ、エフェクター（デジタルエフェクター）もほとんど使われていません。真空管アンプはトランジスタアンプとは違って、真空管そのものが振動することで「録音されていない倍音」が発

生します。1028Be と Beethoven Concert Grand のツイーターユニットを比べた場合、強度が高く内部損失も大きいベリリウムを振動板に採用する 1028Be は音がリアです。それに比べると強度が低く内部損失も小さい「テキスタイル（布）」を振動板に使う Beethoven Concert Grand は、スピーカーそのものが「録音されていない倍音」を発生します。

そのため「録音されていない倍音を発生しない」トランジスタアンプと組み合わせでは、倍音を補う Beethoven Concert Grand の再現する音に適度な潤いと透明感が感じられるのに対し、「録音されていない倍音を発生する」真空管アンプでは、Beethoven Concert Grand が発生する「倍音」が邪魔（過多）になり、高音が損なわれたのだと考えられます。1028Be との組み合わせはその逆で、スピーカーが真空管アンプ

の倍音（響き）をそのまま出せたのだと思います。この考え方をソフトに当てはめると「答」が見えてきます。倍音が豊富なアコースティック楽器のソフトでは、Beethoven Concert Grand で倍音過多となり高音が少し損なわれ、倍音の少ないガガのソフトでは倍音が適正で 1028Be を超える音でガガを鳴らせたのではないのでしょうか？調子に乗って音量をかなり上げましたが、パワーにはまったく問題がありませんでした。本当にたった 12W なの？疑いなくなるほど大きな音で、パワフルにガガが鳴りました。